

公開フォーラム

わが国の医療と医育を語る

講演1 「我が国のがんの現状と課題」

国立がんセンター総長

垣添忠生 先生



講演2 「日本の医学教育を考える」

奈良県立医科大学長

吉田 修 先生



司会：秋田大学名誉教授 正宗 研 先生

日時：平成15年3月15日(土)

午後4時～6時

(入場無料)

場所：秋田ビューホテル 飛翔の間

主催：秋田大学医学部泌尿器科学教室 秋田大学医学部泌尿器科同窓会「虚の会」

後援：秋田県医師会

2003/3/15

公開フォーラム：我が国の医療と医育を語る
秋田ビューホテル 飛翔の間 15年3月15日(土)16時～

司会 秋田大学名誉教授 正宗研先生
講演1「我が国のがんの現状と課題」国立がんセンター総長 垣添忠先生

講演 1 「我が国のがんの現状と課題」

司会：秋田大学名誉教授 正宗 研 先生



国立がんセンター総長 垣添忠生 先生

1967年 東京大学医学部卒
1975年 国立がんセンター病院勤務
1990年 同病院副院長
1992年 国立がんセンター中央病院長
2002年 国立がんセンター総長日本泌尿器科学会評議員、
日本癌学会・日本癌治療学会評議員兼理事。
「膀胱癌の基礎的、臨床的研究」により
国立がんセンター四宮賞（1980年）、
高松宮妃癌研究基金学術賞（1985年）を受賞。

垣添忠生（国立がんセンター総長）

【講演要旨】

我が国では現在、年間に約30万人の方が「がん」で亡くなっている。亡くなる方の約3人に1人が「がん」という状況である。この数値は、年毎に増え続け、罹患率、死亡率ともに上昇を続けている。先進国の中で、日本だけが突出してこのような状況を続けていることは、誠に心苦しい限りである。

がんという病気が遺伝子の傷の集積した結果、発生する慢性の疾患であるということが分ってきた。遺伝子の傷を誘発する原因としては、私どもの日常生活、とりわけ、喫煙、食生活、ウィルス感染が重要であることも分ってきた。

これらに対応する手段はいろいろと考えられ、がんの一次予防、二次予防をうまく組み合わせ、バランスよく展開すること、また難治がん攻略のための研究を進め、新しい診療技術を開発すること、など、総合的な対策により、わが国においても、がんの罹患率、死亡率ともプラトーに達し、さらにこれを低下せしめることが出来る、と私は信じて、この難しい課題にとり組んでいる。

講演2「日本の医学教育を考える」奈良県立医科大 学長 吉田修先生

講演 2 「日本の医学教育を考える」

司会：秋田大学名誉教授 正宗 研 先生



奈良県立医科大学長
吉田 修 先生

1960年京都大学医学部卒。同泌尿器科入局。
1968年米国ウィスコンシン大学臨床腫瘍学教室に留学。
1973年京都大学医学部泌尿器科学講座教授。
1993年から1997年3月まで京都大学医学部附属病院長、
日本泌尿器科学会理事長。

2001年奈良県立医科大学長。

「膀胱癌の実験発癌の研究」により京都新聞文化賞（1980年）、
高松宮妃癌研究基金学術賞（1985年）を受賞。
紫綬褒章受賞（1997年）。京都大学名誉教授。

吉田 修 (奈良県立医科大学長)

【講演要旨】

医療をよくするためには、よき医療人を育てねばならない。そのためには医学教育のさらなる改善が必要である。しかし、医学部入学の動機、教養教育、チュートリアルなどの教育方法、臨床教育と卒後臨床研修、そして生涯教育など、日本の医学教育には多くの問題があり、どれをとってもその解決は容易ではない。

どのような問題があり、その原因は何であり、その解決のためには何をなすべきか？現在の私にとって、片時も頭から離れない課題であるが思いの丈を語ってみたい。

加藤哲郎教授 退官記念パーティ
秋田ビューホテル 飛翔の間 15年3月15日(土)19時～